

ブラジルで開催されたサッカーの世界カップで、試合終了後、ゴミを拾う日本の人たちがニュースになりました。私も嬉しく思いましたし、そのイメージを壊さないようにしようと思いました。しかし、実際、ポイ捨てる日本人がいることも、みなさん良く知っています。日本人が礼儀正しいと言っても、そうでない人がたくさんいることも事実です。ただ、褒められると人間が悪い気分ではありません。



それでは逆はどうでしょうか。「ノーと言えない日本人」ということが昔言われました。そうだと思いつつ、みんながそうとは限らないと思ったのではないのでしょうか。この他、「日本人は英語が苦手だ」、「日本人は縮み志向で内向きだ」等と言われますが、違う人もいると言いたくなります。こう考えると、民族をまとめて語ることがいい加減だということがわかります。結局、よく言われる、「どの国にも良い人も悪い人もいる」となるわけです。

しかし、人はついつい「中国人は〇〇だ」とか、「日本人は〇〇だ」と語ってしまいます。なぜでしょうか。実は人間には「自分たちは複雑に、相手は単純化する」傾向があります。ですから、他人から「日

本人は〇〇だ」と言われると、「そうではない人もいる(もっと複雑だ)」と思い、逆に他人は単純化し、それで「わかった」つもりになります。「韓国人も様々だ」といっても何も理解した気分にはなりません。でも大事なことは、「まとめない」ことです。日本人も外国の人も人によって違う。その単純な真実を受け入れることです。そこから「顔が見えてくる関係」が生まれてくると私は思います。

文：県立広島大学 上水流久彦 講師

イラスト：県立広島大学 ロナルド・スチュワート 准教授

2014(平成26)年 広報あきたかた 9月号掲載